

学校法人 東京滋慶学園 東京バイオテクノロジー専門学校 学校関係者評価委員会 評価結果および改善方策等

【平成26年6月12日実施】

平成25年度自己点検自己評価(平成25年4月1日～平成26年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	学校関係者 評価委員の 評価点 (平均点)	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				
1 教育理念・目的・ 育人人材像	1-1-1 理念・目的・育人人材像は、定められているか	3	教育理念・目的・育人人材像は、明文化・文章化されている。具体的に、入学前には高等学校保護者向け冊子、入学後は学生便覧、教職員には総長語録、企業には求人案内に掲載し周知している。また、それを元に事業計画を作成しそれは、毎年見直し作成をしている。		3	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念・目的。育人人材像は、学校運営の根幹であり職業教育機関としての目標が明確になっている。 ・教育理念の柱であるインターンシップ制度を有効活用していただきたい。そのときインターンシップ先の配慮もきめ細かい対応が必要。 ・教育理念を明確にし、実践を行っていると思う。養成人材像もはっきりしている。 ・教育理念、カリキュラム等については整備され改善取り組みも十分と考えられる。 ・インターンシップは有効だと考えられる。
	1-1-2 育人人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	3	教科課程委員会を設置しそこでの意見を吸収するのみでなく、キャリアセンターを中心に業界の情報を収集している。念に4回業界の方を招いた勉強会も実施している。教員に関しては、業界団体からお送りいただいている講師もいる。また、インターンシップ先は業界からの出してほしいとの要望が多く、王子切れないほどの件数を有している。	教科課程編成委員会は立ち上がったばかりなので、まだ模索段階である		
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	3	教育システム(MMPプログラム、タワー型カリキュラム)を基に動いている。また、インターンシップ制度を積極的に取り入れている。	更なる向上をしていきたい		
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	2	現場力強化の為の実習システムの整備を核として、①学内外の実習の強化②実習指導教員の充実③インターンシップの強化④実習時間数増の4項目の強化を図っている。	更なる向上をしていきたい		
2 学校運営	2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	3	事業計画は、学校運営会議、法人常務理事会、法人理事会の決議を受け、承認を得る。学校の事業計画は毎年3月の初旬 5日間かけて、研修を行い、全教職員へ周知徹底する。また、運営方針の徹底のため、月2回の学校全体会議、運営会議、教務委員会、部署別会議を通じて、問題点や課題を明らかにし、速やかに解決策を出し、実行している。		3	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営のすべての評価項目について適切であり健全な運営がなされている。 ・いくつかのイベントに参加させていただき、組織運営が良好であることは察することができる。運営は当然ながら人が行うので、そこで業務に携わる教職員においても好ましい組織運営が重要であるとする。その上でとてもよい環境であると見ている。 ・理念と方針が合致し達成度を上げている。中期的な事業計画を考慮し、行っている。意思決定システムをその規模に応じて行っている。情報システム化の取り組みを行っている。 ・学校医運営についても整備されており、また、今後についても検討されていることから問題ないと思われる。
	2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	3	学校の組織目的と中期的学校構想のもと、事業計画を作成し、毎年の教職員研修で方針・計画を発表している。さらに、部署毎・個人毎にそれぞれの計画を作成し、教職員全員で共有する。その上で職場運営が実行に移されていく。それぞれの状況は、規定されている定例会議で検証されている			
	2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	3	学園活動の主要なものは、決められた理事会等を経て決定される。決定後は決められた手続きに従い実行される。また、その内容は公開される書類として整備されている			
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	3	運営組織は、実行計画の最適化の観点から見直されている。その全体像は、事業計画書の組織図に示されている。運営のチェックは、各会議で行い、計画遂行の確認をする。問題点を早期に発見し、対策を立て、実行するプロセスを構築している。			
	2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	3	採用計画、人材育成計画は事業計画で定められている目標管理制度を基本とし、これと対応して成果主義を取り入れた賃金制度を設けている。目標管理制度を基本とし、これと対応して成果主義を取り入れ、それに基づき役員会にて決定し、昇進昇格をおこなっている。目標管理制度を基本とし、これと対応して成果主義を取り入れた賃金制度を設けている。			
	2-6-1 意思決定システムを整備しているか	3	意思決定システムは事業計画において明文化しており、諸会議・委員会等の位置づけについても明記されている。意思決定を行う会議の進め方、結果の取り扱いを重視している。それぞれの会議の主催者が明確にされており、最終的に議決に関する責任は明確化されている			
	2-7-1 情報システム化に組み込み、業務の効率化を図っているか	3	専門学校基幹業務システム(IBM社製 i 5(アイファイブ)上に構築)により管理している。また、そのシステム管理に関しては、学園関連企業が継続性を持って、管理を行っている。セキュリティに関しても、教職員教育を含め実施している。			

3 教育活動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	3	事業計画上に、本校の目はすべき方向「実験を仕事にする」を明記し、それを学園理念の「職業教育を通じ社会に貢献する」につなげ、明文化している		3	<ul style="list-style-type: none"> すべての評価項目についてきめ細かな教育活動が行われており教育環境が備わっている。「教育の質保証」とともに「教育の質」をたかめるには、学生の「主体的な学習」こそが最重要ポイントである。体験学習・自立学習・グループ学習により学生自身の課題や学習力の向上・問題解決力やコミュニケーション力を磨きつつ他者視点に立て考える力、全体最適を見出そうとする力を養うシステムのより一層の充実を図る。保護者との連携体制や課外活動に対する支援体制も上記の視点も下に整備・構築を行っていかないと考えます。 他分野にわたりカリキュラムづくりが行われているので、作成者は大変だと察している。よく考えられた科目が設定されていると考える。ひとつよければ同じ科目で同じ学年で教授する際の震度別のクラスでなければ、きい黄緑内容と進行は一定しなければいけないと考える。教授者側の統一感を求める。 教育到達レベル等判定会議にて明確に行っている。教育目標等が明確である。 退学率の改善等さまざまな取り組みを行っており、更なる改善に期待したい。不十分として、2の評価がついている成果把握については卒業生を対象とした情報取捨策も準備しているようなので、その成果に期待する。 学生の修飾語のフォローには力をいれてほしい。
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	3	課題を明確にする際には「業界調査」、「学科調査(入学者傾向、在校生傾向、就職先傾向)」、「競合校調査」を行い、それをもとにカリキュラム等の見直しを行っている。見直された結果を毎年の学生便覧に掲載し文章化している			
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	3	MMPプログラムに基づくカリキュラム作成の際には、「学科調査」「業界調査」「競合校調査」を必ず行い、内部と外部の現状を理解し、課題を抽出した上で、「教育目標」「養成目的」の設定、「モチベーションプログラム」「ミッションプログラム」「プロフェッショナルプログラム」への科目の振り分けにつなげている。また、業界関係者との勉強会も実施している。①講義概要②科目目標③定期試験(日時・実施内容・評価基準・評価方法)④使用教科書⑤使用教材⑥到達目標と授業内容(各回)⑦教科書・使用教材(各回)これらの項目を確実に記載することで、学生に授業内容がイメージできるシラバスになるようしている。前年度12月までに次年度のカリキュラム案のプレゼンを行っている。コマシラバスでは、その授業での目的、講義内容、授業内容の確認のために行う小テストの配点を明記している。	学生の学力レベル格差が広がっており、それに対応するために時間と手間がかかっている		
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	3	教育課程編成委員会を結成し、業界の方からの意見を吸収している。また、業界の方を招いての勉強会も年間4回実施している。そのほか、学校として業界団体に加盟し、ジイ広報交換を行い、それらをカリキュラムに反映している。	教科課程編成委員会は立ち上がったばかりなので、まだ模索段階である。		
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか	3	就職希望者就職率90%以上専門分野就職98%を連続して可能にしていることから、一定レベルは達成できていると考える	今後は、就職した後の離職率も念頭に入れ、本当にその人に根付いているキャリア教育をさらに意識して改革を進めていく		
	3-9-4 授業評価を実施しているか	3	開講して、学生が環境や授業に馴染んできた5月最終週に授業アンケートを実施している。評価体制としては、授業アンケートと、オープン授業を通して、各講師の専門性の把握及び評価を行っている。これらを専門的に行う担当者として、FDOを任命している			
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	3	基準の遵守は徹底的に行っている。また一方で必要なレベルまできちんと到達させた上で進級、卒業を出来るように、成績不良が予想される学生に対しては、早期段階から補習や特別授業を実施している現に存在し、大学からの編入や大学への編入をきちんと行えるようにしている			
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	2	十分とはいえないが、本校教育に絡む部分は把握できている。	卒業生の成果把握が十分ではない		
	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	3	資格取得のサポート体制としては、資格ごとに若干異なるが、ほぼ全ての資格に対して対策講座を取り入れている。			
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	3	資格によっては、通常授業の中に対策講座を入れている。また、別に土・日曜を利用して、特別対策講座を実施している。			
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	3	育成目標達成のために、実習先や第一専門職種の就職先の協力を仰ぎ、より現場を理解し、最前線で活躍している講師を確実に確保する取り組みを行っている。現状採用している講師は、現場での活動も行いつつ講義も行っているものが多い。	左記の内容ではあるが、分野が特殊なため、十分に人材を集めるのには苦労をしている。			
3-12-2 教員の資質向上への取り組みを行っているか	3	年間2回の講師会議及び新任時点での講師会議において研修を実施している。また、担任研修を実施し、教授力向上とともに、ヒューマンスキルの向上も図っている授業アンケート、オープン授業など授業を学生あるいは他の教職員に評価してもらう仕組みを導入している				
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	3	月に2回教職員の全体会を実施し、都度都度必要な行事・業務に関して相互に確認を行い、協力関係を築いている				
4 教育成果	4-13-1 就職率の向上が図られているか	3	目標数字を設定した上で毎月15日・末日数字を確認し、問題がある場合検証改善を行っている。就職関連の行事は念に数回行っており、学内での企業性説明会をはじめ、企業との連携をとっている。		3	<ul style="list-style-type: none"> 実学教育にはスペシャリストの育成が求められる。一人ひとり個性を最大限に活かし、それぞれの業界で力が発揮できるよう項目について充実した指導が行われている。卒業生に関しては、個人的な繋がりがあつだけでなく、学園全体として把握することもひとつの方法である。 成果は就職と卒業論文に帰着すると考えるときわめて良好であると思われている。このまま続けてほしい。 就職率の向上については特に気を使っている。 新たな四角の取得など前向きな取り組みが評価できる。 卒業生たちのフォローは今後も力を入れてほしい。
	4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	3	グループ校の同学科で構成される教育部会を設置し、100%合格のための仕組みづくりを行っている。資格取得者数及びその推移の把握に関しては、各学科で・自校の結果及び推移の把握、データ化・他校の結果及び全国の合格率の推移のデータ化を行っている。			
	4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	2	卒業生に関しては、一部の教職員と個人的につながりのあるものなど特定なものしか正確には把握できていないのが現状であるいくつかの学会での受賞などの話は聞いている。また、食品業界等においても新製品にかかわっているものが多数いる。	卒後年数を経ると状況がわからない場合が増えている。		

5 学生支援	5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	3	本校の就職支援は、就職に対するモチベーションを切らないように次のようにフォローで行っている。主なものを参考資料欄に記す。全体に対しての説明会は、就職年次1年前より実施している。心構え的なものを教員が行うほか、企業による校内企業説明会も実施している。学生個々に対しての個別面談は各学年ごとに実施しているが、特に就職に関しては、インターンシップ時期、就職希望時に行っている。最低週に1回担任授業あるいは就職専門の講師による就職講座を入学年次の後期から実施している		2.8	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援については「学生第一」の観点から点検評価項目に対して詳細かつ適正に評価がなされている。今後も学生側に立っての学生支援をよりいっそう充実して、学生満足度を高める施策をとっていただきたい。卒業生支援体制として同窓会組織の充実と同窓会会員のネットワーク、会報の発行充実なども重要である。卒業生の支援とともに学園の後援会としての役割を担う体制も必要と思われる。在学生への卒業生のより強い支援になると考えられる。 ・担任の先生の対応が細かく学生さんたちに行われていると考える。又卒業生が卒業後学校を頼る姿を見るとほほえましくなる。課外活動はどのようなことをさせているのかわからないが、時間外の研修や知識を深めることには支援できている。 ・学生支援も十分に行われているとおもわれる。課外活動については、寿費用優先で仕方ないと思われる。 ・1の評価の課外活動については、学業の内容の性格上やむ終えないと考えられる。学生サービスは、十分満足できるレベルであると考えられる。 ・学生の休日でのクラブ活動のサポートは無理か？たとえば、グラウンドの提供、用具の貸し出しなど。
	5-17-1 退学率の低減が図られているか	2	中途退学に対しては、毎週1回の教務会議にて個別に対策を立てて、対応している。	進路意識の低い退学者がここ2年増加している。		
	5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	3	本校の学生相談室は、「滋慶トータルサポートセンター(以下JTSC)」という名称で学生生活全般における不安や悩みの相談に乗っている。専属のカウンセラーが対応している。			
	5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	3	留学生に対する相談は、学生サービスセンターが中心に対応している。学生サービスセンターの職員は留学生に関する研修を毎年受講している。外部機関としては、国際センターを学園として設置し、国ごとに対応可能となっている			
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	3	公的奨学金の他に学園独自の奨学金を用意している。経済的理由による退学や休学になることを、極力防ぎたいという学園の考えから、状況に応じて学費の分納・延納を認めている。			
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	3	受診できなかった学生に対しても他校での健康診断の日程で受診できるようにしている。また再検査の学生に対しては、通知を出しグループ企業の「慶生会クリニック」で受診させている。慶生会クリニックは内科・歯科・心療内科の3科があり、医師、看護師が勤務している			
	5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	3	安心できる業者を選択し、その業者を指定業者とし、学生に紹介するようにしている。また、入学時にセミナーを開催し、一人暮らしの不安を解消しようと			
	5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	1	実験系の科目の場合、終了時間がはっきりしないこともあり、部活動はあまり活発化していない			
	5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	2	毎年7月に1年生保護者に対して、保護者会を実施している。それ以降は、2回欠席した時点、何か気になったつどに保護者と連絡を取り合い連携して対応している。			
	5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	2	生涯学習支援として、卒業後もキャリアセンターの利用が可能ないようにしている。	卒後年数を経ると状況がわからない場合が増えている。		
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	3	次年度より、組織培養学会と共同して「細胞培養士」実験動物学会と共同して「実験動物1級認定」国家検定として「分析技能士3級」を実施していく。また、卒業研究においては、ほぼすべてが産学協同となった。				
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	3	本校の場合、大学からの編入等も毎年数名いるため、単位互換等の仕組みは活用されている。また、長期履修制度も毎年数名が利用している状況である				
6 教育環境	6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	1	学校の窓口は、学生サービスセンターが担当し不具合があった場合は担当者に連絡し修理を依頼する。365日24時間の対応がなされている。事業年度ごとに施設設備改修計画、整備計画を事業計画に記載している。合わせてその予算も記載している。	校舎が古くまた特殊な教室郡であるために、バリアフリーには対応できていない	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学外実習、インターンシップ、海外研修など、「学生第一」の観点から十分な環境づくりに配慮されている。防災安全管理についてもきめ細かな体制と整備がなされている。施設については、校舎が古くまた特殊な教室があるため、バリアフリーには対応できていない点については、安全の観点から今後の検討課題であろう。 ・バイオ分析系の設備は完璧なものは存在しないので、出口を見据えた設備を考えればよいと考える。防災訓練がおこなわれ、又薬の管理も徹底しているとしている。 ・防災については被害が大きく想定される地域に学校が存在するので、特に配慮していただきたいとします。 ・校舎の老朽化の問題については、今後の動向に注目したい。 ・古い校舎については、確かに順次手を打っていく必要がある。
	6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	3	インターンシップに関しては、実施運営内容、成績評価などすべて文章として規定している。海外研修の渡航先に関しては、各学科の目指す業界に対して一番の先進国であり、そこでの活動を十分に体験出来ることを前提に選定している。学園の国際部と連携して実施している。海外研修は、この国際教育という理念に基づく主要な教育実践の場と言える。海外研修は、学園の考えでもある「国際教育」を実践するものである			
	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	3	防災に対しては、マニュアルの整備、スタッフの役割分担、学生への情報提供など体制の整備はされている。専門業者による各実習機器の点検、保守、修理、修繕を行っている。学校側は教職員が、機器の確認点検を行い、学生にはその使用法の指導を授業中に実施している。グループ関連企業に依頼し、法令に定める防災設備の定期点検及定期報告を実施している。また例年、非常動も交えて避難訓練を実施するなどハードソフトの両面から災害防止にと取り組んでいる。救急時における機器・備品も準備されている(AEDや備蓄水など)。学校として保険に加入している。また、行事ごとに必要に応じて保険に加入している。年1回の避難訓練や、一人暮らしの学生に対して、一人暮らしセミナーの中でも防災への注意喚起を行っている。			
	6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	3	薬品に関する規定を策定し、東京都に届出、認可を得た上で、規定どおりの保存方法を実施している。			

7 学生 の 募 集 と 受 け 入 れ	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	3	高等学校の説明会にも積極的に参加するとともに、学校認知向上のため、数箇所の教育委員会とも連携し居言う印象の講座も実施している(長野・千葉)	3	<ul style="list-style-type: none"> 学生募集と受け入れについては、学園の存続に関する重要事項であり、オープンキャンパスの開催、高等学校への訪問により募集活動、広報活動を行うなど今後も学園一体となり推進していくことは重要である。すべての項目について適切に取り組んでいる。さらに学生、保護者、高等学校への学園理念、教育環境、教育成果を性格に伝え、信頼を得る取り組みが重要である。 入学してくる学生さんの顔色が年々よい感じがしているので、学生募集の受け入れがうまく言っていることを察している。 学生を受け入れる意味ではよいと思う。入ってから教育内容を十分保護者等に理解してもらう努力を行ってほしい 入学前から入学を希望するものへの対応を蜜に行っている点は非常に評価できると思う。 日本語能力が壁にはなるが、海外に対しても募集広告を出せるともつと留学生も増えると思う。その場合奨学金の提供も視野に入れる必要がある。
	7-25-2 学生募集を適切かつ効果的にやっているか	3	本校は、東京都専修学校各種学校協会に加盟し、同協会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容(推薦入試による受け入れ人数等)を遵守している。志望者・保護者等の立場に立った分かり易いものとしている。あいまいなことは、入学事務局から改めて連絡するようしており、不確かなことが外部に伝わらないようしている。常に最新の業界への対応のためと、安定した入学者確保のための、学科のイノベーションを常時に行っている。		
	7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	3	入学試験後は、全マネージャーにより構成される、「選考会議」により基準に基づいて可否を確定している。選考終了後は、「選考会議」により可否を確定する。面接結果、書類内容、選考試験が実施されている場合、その結果を踏まえ、将来バイオ業界で働くことに適性があるかを総合的に判断している。		
	7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	3	毎年の入学選考に関するデータは蓄積され、入学後の学生レベル確認と次年度以降の広報活動の参考に用いている		
	7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	3	学費及び諸経費の無駄な支出をチェックしている。その上で学費の見直しを毎年実施するようにしている。		
	7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	3	返還の旨を募集要項にも掲載し、対外的にきちんと返金がおこなわれることもわかるようにしたうえで、遅滞なく返金にも応じている。		
8 財 務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	3	学校運営の財務プロセスは基本的には予算(Plan)→実行(do)→決算書作成→フィードバック・評価(see)→承認という流れをとる。そのうち学園本部は財務内容のチェックを行う機能を有し、理事会・評議員会は計算書類の内容等法人全体の事項を承認する機能を有する。	3	<ul style="list-style-type: none"> 財務についてはすべての項目に関して適切かつ厳正に実行されている。 自己点検・自己評価項目の総括において適切な財務管理が行われていると考える。
	8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	3	毎年事業計画を作成し、その中での予算は、未来の決算書であるとの考えでより正確な支出計画を作成する。また、その段階で前年度の支出見直しもおこなう。		
	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	3	5か年の事業計画においては運営方針に基づいて計画され、収支計画も運営方針に基づいて数値化される。特に、収支計画は各学科の入学者数目標と予測、在籍者目標と予測から綿密な計画を立てている。		
	8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	3	毎月ごとに収支を単年度費消状況、前年度対比などで確認をし、半期に修正する機会も与えられている。ここ数年は、予算の内輪での執行ができています		
	8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	3	公認会計士による会計監査は指摘があれば会計処理等の修正を行い、適正な計算書類の作成に尽力する。また、監事による監査においても公認会計士の監査に加えて、指揮命令の系統の確認、業務体制の確認等の業務監査も同時に行い、法人の運営が適正に行われているかどうかを監査している。5月に実施される理事会及び評議員会に計算書類が適正であるかどうかを記載した監査報告書を提出し、内容を報告している。		
	8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	3	当法人の財務情報公開に関しては、常務理事が統括し、事務局長が責任者として担当する。また、事務担当者を置いて現場対応を行っている。「財務情報公開規程」では、目的、管理、公開対象書類、閲覧場所・時間、閲覧申請方法等を規定している。すなわち、情報公開に必要な最低限の事項を定めている。		

9 法令等の遵守	9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	3	方針実行の為、学内にコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンスを確実に実践推進に当らせることとした。 委員長は統括責任者として学校の役員が就任する。 委員は、学校の現場責任者である事務局長を中心に構成される。教職員に対するコンプライアンスに関する教育・研修の実施、コンプライアンス抵触事案への対応及び再発防止策の検討・実施、コンプライアンスの周知徹底のためのPR、啓蒙文書の作成・配布などをおこなっている		3	法令の遵守については法令等の項目に関して遵守している。 ・私たちが含めた外部評価委員の意見も取り入れられ、円滑に行われていると考える。ホームページは細部にわたり知りたい情報を取り出せるようによく整っている。
	9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	3	学校内に以下の組織を置き、責任者・担当者を任命し個人情報保護に関して担当させている。 個人情報保護委員会 個人情報取扱委員会 教職員に対しては、就業規則等にも個人情報保護を明記すると共に、定期的な教育・研修を実施し受講者に試験を行い合格者には終了証を交付して周知徹底を図り、併せて各人より「個人情報保護誓約書」を提出させている。			
	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	3	本校の属する法人にも自己点検を提示し、その修正ポイントを法人全体として確認のうえ、計画を立てて改善をおこなっている。			
	9-34-2 自己評価結果を公表しているか	3	私立専門学校等学校評価検討委員会に加盟し、私立専門学校等学校評価検討委員会のフォーマットに基づいた評価をおこなっている。			
	9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	3	今年度より学校関係者評価委員会を設置し評価を行っていただいている。それを元に徐々に改善を進めている。			
	9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	3	今年度より学校関係者評価委員会を設置し評価を行っていただいている。それを元に徐々に改善を進めている。			
	9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	3	ホームページを中心に公開している。			
10 社会貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	2	全国4校のバイオ教育をおこなう学校と連携をとっている。また、各学会にメンバーが属し、情報交換と交流をおこなっている。高等学校教職員向けに各教育委員会等を通じて講座を開設したりしている。東日本大震災に関する文部科学省委託事業に際しては、学生10名程度が参加協力をし、啓蒙活動に寄与した。東日本大震災に関しては、文部科学省の委託事業に参画し、放射能汚染に関わる食品分析のできる人材開発に寄与した。 また、来季に向けて地元の小学校で理科協座を開講する計画も進行中である。		2	社会貢献を通して個人と社会、社会の一員であることの自覚、専門的な技術を活かし社会貢献するという参画意識は重要である。バイオテクノロジーは、これからの産業の発展や地球環境の安全に欠かせない分野である。一層推進していただきたい。 ・現時点では評価が2であるが、本年度から近隣の小学校や大田区の環境保全に貢献するプロジェクトなど今後期待するものがある ・十分とはいえないが、今後明確な目標を定めてほしい。 ・国際交流は重要だが、そのための英語教育等の機会を提供できるようにするひつようがある。
	10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	2	海外研修としては、現地の一流企業が積極的に協力してくださりレベルの高いものを実施できているが、海外企業との連携という意味では十分なされてはいない			
	10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	2	東日本大震災にかかわる衣類の寄付部分は、教職員側から問題提起をし、学生組織としておこなったが継続して行うことが出来ていない。 十分に把握できていない	学生の自主性といってもなかなか難しく、教職員側から問題提起等をしていく必要がある		

◆学校関係者評価委員の御意見に基づく改善方策

今回の話し合いの中でご指摘いただいた中では、分野のはっきりした小さい学校なので、入学生の広報のみならず、出口への広報、つまり、業界への広報も必要ではないかというご意見を頂戴したので、次年度にまず同窓会の要素を含んだ卒業後講座を開講していきたい。また、シートにご記入いただいた中で、卒業教育および卒業生と在校生の結びについては、①卒業研究発表会をその場にする②来期より、分野ごとに同窓会＋勉強会を実施し、卒業生同士及び在校生、業界の勉強の場を設ける。カリキュラムに関わる部分に関しては、カリキュラム編成委員会を積極的に開催し(定例外でも)内容が業界に常に合うように心がける。というような形で実施していきたい。